



丸岡ロータリークラブ 2011～2012 年度 テーマ
長期ビジョン・将来に向かって

会長 高嶋勝美 幹事 下村晴夫

創立 昭和 53 年 3 月 21 日 承認 昭和 53 年 4 月 6 日
<http://www.maruoka-rotary.com>

平成23年11月に行なわれた例会行事・卓話をまとめて、月報として報告しております。

	日	曜	例会	演 題	卓 話 者	Page
11月	2日	水	1637回例会	ガバナー公式訪問に備えて	堀江邦旺ガバナー補佐	1～2
	9日	水	1638回例会	ガバナー公式訪問	今西信裕ガバナー	2～4
	16日	水	1639回例会	税の役割と税務署の仕事	石村隆之税務署長	4～5
	30日	水	1640回例会	財団の新補助金制度について	大塚財団補助金委員長	6～8

11月2日(水) 1637回例会

ガバナー公式訪問に備えて

ガバナー補佐 堀江邦旺 (鯖江RC)

昨年もガバナー補佐をしておりましたが、本会の前年会長林田(恒)さん、幹事の高尾さんには大変お世話になりました。今年もまた、高嶋会長さん、お世話になります。

私の見ている限り、丸岡RCの皆さんの意識は大変高く、団結力のある会と認識しております。私が在籍している鯖江RCは現在30名ですが、私が会長をしている時は72名で、予算にしてみますと2,200万円でした。その後、右肩下がりの状態で、今まさに「背水の陣」です。会員増強委員長が200名余りをリストアップして、増強に頑張っている「力」を入れてもらっています。青年会議所、NPO法人等、民間で活躍している方や職業分類に該当しないような方も含めています。鯖江ライオンズクラブは300名上げて3名の加入で、1%の確率という大変厳しい状況だった事を考えると、丸岡RCの5名増強というのは、大変素晴らしい事だと思っています。この5名の方には、ロータリーの良さを体感していただき、退会の無いようお願い致します。その為には、クラブが活性化して頂くことが望ましいと思ひ、お話しさせていただきます。



長期計画について

ロータリークラブは利益団体ではないので、中、長期計画になじまないのではとの意見もありますが、やはり計画を立て実行することが大事な事だと思います。

個性あるクラブ作り

各地域において、例えば丸岡RCでないと出来ないという事業を立案・計画・実行(奉仕)をガバナーは望んでおり、丸岡RCの自主性に期待しています。(RIの定款に触れない様に)

リーダーの育成・人材の育成

これは長期計画にも関連しますが、会員を増強し、丸岡RCはどのような事がしたいのかを中・長期に計画して頂きたい。各々の思いでなく、意思統一したものを作り上げて頂きたい。そして将来、丸岡RCはどういうものでありたいか示して頂きたい。

クラブ活動報告書について

クラブ管理運営にどの様に効果があるかというのが「CLP」です。

「クラブ研修リーダー」というのがありますが、報告書に記載されていません。人材のレベルアップを図り、クラブの質を高めるためにも受講して欲しい。

「奉仕プロジェクト」 予算160万円が計上されていますが、決算が99万2千円で極端な数字になっていますがどうしたことなのでしょう？

「会員増強・退会防止」 1千円と計上されていますが、やはり増強の事を考えると、もう少し増額しても良いのではないかと。

他のクラブと比較しても、大変素晴らしい内容となっていますが、丸岡RCがもっと良くなるには、以上

のことが必要でないかと考えます。

鯖江北RCはメンバーが17名になり合併の話が出ましたが、私としては反対です。なぜなら、大阪地区での例ですが、30名+30名の合併を実現させても、ゆくゆくは30~40名になってしまうのが現状です。

テリトリーが壊れ、大きいクラブはより大きく、小さいクラブはより小さくなっていく傾向があります。小さいクラブが悪いという事ではなく、世界のRI理事が出てくるのは小さいクラブから出てくる。大きいクラブでは、先ず会長になれない。200名もいると70才になっても会長になれない。会長にならないと、地区にもRIにも出ていけない。小さいクラブでは役が回ってきて必然的にポジティブになりますが、大きいクラブでは委員長すら出来ない会員さんがおります。理想的には50~60名の会員数が良いのではないかと思います。三国RCさんも30名なので大変苦労されています。地区に会員を10名を送る時には金銭的にも大変です。例えば丸岡RCと一緒に参加して頂くといったことも考えて頂ければと思います。小さいクラブ程、切実な話です。

東日本大震災について

2650地区としても支援を続けていきたい。地区として、親を亡くされたお子さんを対象に支援していきたい。

ロータリー財団について

4月から免税措置がとられるようになりました。

11月9日(水) 1638回例会

国際ロータリー第2650地区

今西信裕ガバナー 公式訪問



今西信裕ガバナーアドレス

13:00~13:30



RI 2650地区のガバナーの今西信裕です。本日は当丸岡ロータリークラブによせていただきました。80番目の公式訪問です。先ほど丸岡城へ登ってきました。とてもよい眺めでした。今ほど池田さんから「伝説の古城の町へガバナー迎えて、今年もハッスル・ハッスル」を聞かせてもらいました。34年間チャーターメンバーとして活躍されてきた池田さんのような立派な会員がおられるクラブを素晴らしいと思います。

先ほど、クラブ活動報告書を見せてもらいました。大変立派な報告書です。報告書がキチンなされているということはそのクラブの活動が充実している証拠です。ぜひ事業の中に落とし込んで頑張ってください。

又、ロータリーの友の解説をクラブ例会で長時間にわたり全員で解説を聞くのは初めてで、このような事が蓄積されてクラブの力になっていくのではないかと思います。今後とも続けて頂きたいと思います。

私は今年1月15日から25日までアメリカのカリフォルニア州サンディエゴで開催された国際協議会へ行ってきました。世界のロータリーの組織力、ロータリーが果たしている役割の大きさを改めて実感してまいりました。

今年のテーマは「心の中を見つめよう。博愛を広げるため」である。

今年のRI会長インドのパネルディ氏は今年の方針について次のように述べています。「深く自己を顧みることによって、人類が皆、同じ夢、同じ希望、同じ願望、同じ問題を分かち合うことを理解していただきたい。私たちはみな同じように平和を願い、充実した日々を送りたいと望んでいます。人に何かを与えようとするなら、まず自分自身にそれを与えることです。つまり自分の心を見つめ奉仕したいという願望に火をとしましょう。」

それを家族に、地域社会に世界に広げていきましょう。」と
そして具体的な課題を次のように伝えています。

1. 強い家族を築こう

2. 得意の分野を継続していこう（ポリオ撲滅、きれいで安全な水の提供、識字率向上、青少年育成など）

3. 変える必要のあることを躊躇なく変えていこう

ロータリーを通じてしあわせと健康と平和にあふれた社会の実現を目指したいと述べておられました。

R I の方針をうけて今年の2650地区のテーマは「良き伝統を守り、新しいロータリーに挑戦しよう」としました。R I の最近の方向性として、将来にわたり役に立つ組織であるための変革が求められていると思います。そのためどのように時代の要請にこたえていくかの意識のもとに長期プランをたててより大きく、より豊かにより大胆に改革を進めております。

一方、職業奉仕を基本とする当初の基本方針が失われているというシニア会員の危惧があります。これも私は当然と考えています。この点を踏まえて地区ロータリー会員が一体となって頑張っていきたい、ご理解とご協力をお願いしたい

その観点に立って地区運営方針を以下の7つを掲げてさせてもらった。

- 1 長期計画を立ててクラブの活性化を目指す。各クラブでの認識、関心を高めたい。具体的な行動計画を立てて実際の活動に落とし込んでいただきたい。現在75クラブの長期計画が出来上がっている。
- 2 リーダーを育てる。RLI（ロータリーリーダーシップ研究会）を今年も3回開催したい。ロータリーの基本についての認識を今一層高めたい。参加した人はクラブへ持ち帰り成果や情報をクラブ員に伝えてほしい。
- 3 ロータリー財団・米山奨学会を支援し、未来の夢計画を積極的に取り組む。2650地区は昨年からの3年間のパイロット地区になっている。日本国内で6地区が指定されているがモデル地区としてしっかり取り組んでいきたい。

事業活動の補助金をどんどん使ってください。原資は皆さんの寄付である。寄付もふるってほしい。米山奨学会の維持のためには年間14億円必要であるが毎年1億円不足している。どうかよろしく寄附に励んでいただきたい。

- 4 会員増強 2650地区では前年度64会員現象であり、減少は14年間続いている。

ピーク時の60%の会員になってしまった。入会員はあるのだが、退会が多いので食い止める努力もお願いしたい。例年12月と6月に退会者が多い。当丸岡クラブは昨年増員したが今年もよろしくほしい。

- 5 地区組織の合理化、シンプル化を図りたい。データベースを整理したい。

- 6 長期計画の中核となる価値観「奉仕、親睦、多様性、高潔性、リーダーシップ」を一人一人が認識し、行動で活性化させる。

- 7 「ロータリーの未来のために、今、何を成すべきかを考える」

何を取り入れ、何をすてるかは個々のクラブの独自ある行動によるが、互いに切磋琢磨して特色ある行動を起こしていただきたい。

以上の方針で地区を運営していきたい。チームワーク、共通認識があってクラブは活性化する。どうかご理解をいただいてよろしくご協力をお願いしたい。丸岡クラブのさらなる御健勝を期待します。

クラブ協議会

13:45~15:45

高嶋会長 挨拶

7月より始まり4ヶ月が過ぎました。皆様のご協力のもと、行事が成功に終わっているのではないかと思います。これから皆様に活動計画、活動の成果などを発表して頂きます。

今西ガバナー挨拶

丸岡RCはまとまってとても素晴らしいクラブです。資料も内容がわかりやすく、しっかりしていて、良い活動をしている実態が分かります。

ガバナー補佐、副幹事もおりますので、お互いがよくわかるように検討し合い、調整しより良くしていこうという会議です。充実した時間になるようお願い致します。

堀江ガバナー補佐 講評

広報委員会 地元のメディア（さかいケーブルテレビ）の方が会員という事を充分活用して、ロータリーの広報活動をしていることはとても素晴らしい。

会員増強 若い会員を注入して、その活力を会員増強に図る事は、今西ガバナーの方針に則り実践・実行しているのではないのでしょうか。

国際奉仕 海外との奉仕活動の夢を持っているのはとても良い事です。

- 会計 会員40名はバランスの良い構成ではないか。会費の20万円は大変安いです。ニコニコも160万円と奉仕活動には丁度良い金額ではないでしょうか。
- S A A 時間をゆっくりとっているのは良い事だと思います。
- 出席 福井県では素晴らしい出席率です。地区の平均が90%ですので当クラブは平均ですが、今の出席率を維持して、福井県のリーダーとなって欲しい。
- クラブ広報 地域のマスコミを使い広報をするのはとても良い。
- ① これから若い人を入会させようとするHPは重要になってきます。入会しようかなと思った時、まず見るのはHPで自分と合っているかを確認します。若い人に開放できるようなHPにしていきたい。
 - ② 会長ブログは続けて欲しい。
 - ③ 奉仕活動と地域のマスコミを連携させているのはとても良い。
- 会報 IT化は良い事なのですが、シニアリーダーの方がいますので、その配慮をして頂きたい。使えない方もいるのでペーパーでの配布も考えて欲しい。
- 会員増強 増強される力は充分にあります。地域と密着している事が最大の武器です。会員増強は会長のリーダーシップです。全員でなくてはならない。若い人、新しい人が必要だという共通の認識を持って貰いたい。
- ロータリー情報 ロータリーの頭脳となる委員会です。オリエンテーション・家庭集会をしっかりとやって欲しい。中堅の方が頑張っていて欲しい。研修リーダーとの兼ね合いや長期計画をどう落とし込んでいく役割を担っていますので、とても重要な委員会です。
- 国際奉仕 国際大会にご参加ください。国際大会には田中作次氏のスピーチもありますので、地区からも300名ほど参加して欲しいとの要請も来ています。
- 新世代 『古里をのろしでつなごう』はユニークで面白い企画です。ぜひ、続けて欲しい。RYLAはとても良い企画なので、若い方の参加をお願いしたい。
- 朝早くから長時間に渡り参加いただきありがとうございます。すでに4ヶ月を過ぎていますが、高嶋会長を中心に今年一年の活動が皆さんにとって素晴らしい良い1年になりますようお祈り申し上げます。



「税の役割と税務署の仕事」

三国税務署 署長 石村隆之様

1. 税の役割

国税庁では、税の役割を「社会資本の整備と公共サービスの費用」と位置付けております。私たちの身の回りには、私たちが健康で文化的な生活を送るため、国や地方公共団体による多くの公共サービスが存在しております。

これからの日本社会と税を考えてみますと、少子高齢化社会の進展に伴い、例えば、高齢者が増えることによる社会保障関係費が増える一方で、その費用である社会保険料を負担する働き手が減り、国税等による負担が増えるかもしれません。いずれにしましても、今後とも、豊かで安心して暮らせる未来のために、税負担と給付の関係について、私たち一人一人が考えることが必要となってきております。

2. 税務署の仕事

国税庁の使命は、「納税者の自発的な納税義務の履行を適正かつ円滑に実現する」ことにあります。また、わが国は、納税者自らが、税務署へ所得などの申告を行うことにより税額を確定させ、この確定した税額を納税者が自ら納税する「申告納税制度」を採用しており、憲法 30 条では、「納税の義務」が定められているところであります。この申告納税制度が適正に機能するためには、税務署は、税務行政について納税者の皆様方の理解と信頼を得ることが何よりも重要であります。納税者の皆様方には、ひとりひとりが高い納税意識を持って、憲法・法律に定められた納税義務を自発的かつ適正に履行していただくことが必要となってまいります。

3. 租税教育

また、国税庁では申告納税制度が適正に機能するためには、国の基本となる租税の意義や、役割を正しく理解し、健全な納税者意識を養うことが重要と考え、租税教育にも取り組んでおります。

三国税務署におきましても、国・県・市、更には小学校・中学校の先生方など、教育関係者等で構成された「租税教育推進協議会」を中心に活動しております。主な活動としましては、学校への租税教育用副教材の配付、租税教室への講師派遣、税に関する作文・ポスターの募集等を行っております。

税に関しましては、いろんなご意見もあろうかと思いますが、少なくとも税金は、私たちみんなが豊かで安心して暮らせるための「社会の会費」とした面を有するものであり、私たちが、それぞれの納税の義務を果たすことにより、この社会が成り立っております。

この国の未来を担う生徒さんには、租税の意義や役割を正しく理解していただきたく、また、これを伝えて行くのは、われわれ大人の責任でもあり、社会全体で取り組むべきものと考えております。



ロータリー・リーダーシップ研究会 (RLI) より

3回の講義を受講された林田恒正会員に
卒業証書とバッチが贈られました。



『ロータリー財団の新補助金制度について』

地区財団補助金委員会 大塚紀夫委員長

こんにちは。早速、財団のご説明をさせていただきます。お手元の資料にそってさせていただきますので、よろしくお願い致します。財団がだいたいどういう物かという事を、ご説明しています。

①ロータリーとロータリー財団について

ロータリー財団の正式名称は「国際ロータリーのロータリー財団」で、ロータリーとロータリー財団は一体です。ロータリーの使命「ロータリアンが、人々の健康状態を改善し、教育への支援を高め、貧困を救済することを通じて、世界理解、親善、平和を達成できるようにすること。

②ロータリー財団への寄付（資金支援）について

財団は寄付、皆様からの浄財で基本的に成り立っています。寄付には、「年次プログラム基金（年次寄付）」「恒久基金」「使途指定基金」主としてこの3つです。この寄付を頂きますと、皆様の浄財がどう流れていくか。これが財団では、シェアシステムという1つのルールで繋がっていきます。

③シェアシステムについて

皆様からの浄財は、年次寄付と恒久基金（収益のみ）が3年後に国際財団活動資金（WF）と地区財団活動資金（DDF）に半分ずつ配分されます。WFは、ロータリー財団が管理し、グローバル補助金に使用されます。皆様のDDFは、地区が管理し新地区補助金という制度が始まり、この地区の資金を50%以内という計算のもと、財団の方へ地区から申請します。これが新地区補助金です。残りの50%をクラブが国際的なプロジェクトをご計画した場合にグローバル補助金で活用させていただきます。

④ロータリー財団のプログラムについて

ロータリー財団は、「新地区補助金」プログラム、「グローバル補助金」プログラム、「ロータリー平和フェロシップ」プログラム、「ポリオ・プラス」プログラムという大きな4つの活躍をいたしております。

⑤新地区補助金について

DDFの50%以内を使い、地区の裁量で、人道的、教育的、社会奉仕活動の色々な多種多様のプロジェクトを実施できます。丸岡クラブも大変積極的に新地区補助金をご活用するという意欲にみられていましたが、残念ながら今年は、先程高島会長にもお詫びを申し上げました。ちょっとタイミングが色々ございました。お詫びいたします。次年度は、是非、お使いいただくように願っております。

新地区補助金は、財団ではなく、地区が管理をします。地区とクラブのご相談で決めます。事業は、国内・海外実施し、補助金上限は、DDF50%以内で下限はありませんのでわずかな金額でも申請できます。

⑥グローバル補助金について

財団が奉仕事業のターゲットは、6つの重点分野を決め、これに関した事業のみグローバル補助金が授与されます。「平和と紛争予防／紛争解決」「疾病予防と治療」「母子の健康」「水と衛生設備」「基礎的教育と識字率向上」「経済と地域社会の発展」に関わる、この6つの事業のみです。

皆様のクラブでご用意いただく現金資金に対しては、その1/2を補助金として組み合わせ支給され、DDFも事業の資金計画に入ります。このDDFを使うと、同額が組み合わせられ上乘せされます。

補助金ですが、最低1万5千ドル、最高20万ドルという範囲で申請なります。基本的に事業総額としては、3万ドル以上の物で、2カ国以上のクラブまたは地区が参加するプロジェクトが対象となります。奨学金の場合は、6つの重点分野に該当する大学院で、期間は1～4年、3万ドル以上の支給となります。

ご注意ください点は、申請時点で大学院に留学する、大学院に合格している決めがあります。



⑦ロータリー平和フェロシップについて

これから財団が力を入れていくプログラムの 1 つです。紛争解決と平和に関する国際問題について研究を、2 年間ロータリー平和センターにて修士課程を学びます。奨学金は 5 万～12 万ドルが平均的です。世界全体で、2010 年末、約 400 名が終了し、現在約 450 名、日本からのフェローは 20 名です。

⑧ポリオ・プラスについて 皆様の相当なご協力により、撲滅の方向に力強く歩んでいるようです。

⑨これからのロータリー財団の方向「R 財団の未来の夢計画」について

2017 年、創立 100 周年を財団が迎え、ロータリー財団の方向を改めて検討し「R 財団の未来の夢計画」を策定しました。目的として、プログラムと運営そのものを簡素化し、世界の優先的ニーズに取り組み世界的なものと地域的地域的ものにしていきたい。意思決定をさらに皆様方に移行、財団は自分達の物だという自覚して行こうという事です。ロータリーの公共イメージも皆様のご活躍の中から高めていきたい。これが、R 財団の未来の夢計画の目的です。2013、2014 年度から全世界でこの未来の夢計画が実施される予定です。現在わが地区は、スペインをこの夢計画の実践地域地区として活動しております。

『ロータリー財団への寄付』

年次寄付

当地区の年次寄付の実績は、2010～2011 年度は 85 万 3 千ドル、皆様の地区平均は 1 人当たり 182 ドルです。京都紫野 RC が地区内では非常に大きな実績を残され 1 人当たり 460 ドル、2 番目は、大津東 RC で 1 人当たり 410 ドル程ご寄付が実績です。年次寄付は、皆様方に新地区補助金等で色々お使いいただく重要な資金源ですので、ご寄付の方もまたよろしくお願い致します。

使途指定寄付 ロータリーカードについて

ロータリーカードは購入額の 0.3%が財団寄付として自動的に日本事務局に振り込まれるシステムになっています。もちろん、皆様の個人名で実績としてカウントされて参ります。又、ゴールドカードをお持ちの方は、年会費から 3 千円が寄付として日本事務局に振り込まれています。買い物をする時、買い物の中からポイントがつき、そのポイントも寄付の方にお使いいただく事ができます。

日本でロータリーカードによる寄付は現在までに約 2700 万程自動的になされています。世界累計では、約 6 億 5 千万です。なお、東日本震災復興、こちらの方へロータリーカードによる寄付が自動的に使途指定になりまして、全てカードによる寄付は東日本震災復興支援に使われる事を決定したようです。

『シェアシステムによる財団寄付金の使用の流れ』

シェアシステムによる財団寄付金の使用の流れは、皆様からのご寄付、年次寄付は全額恒久基金寄付は収益のみです。3 年後に使用され、WF50%、DDF50%に分かれます。WF は財団本部が使途を決定、DDF は皆様が使途を決定します。

『新地区補助金』

皆様方にとって使い勝手のいい財団プログラムです。クラブの皆様が主役です。クラブはまず地区に対して、個別プロジェクトという事で思案された事業を申請書に基づき提出します。地区は 96 クラブからのそれぞれの申請を審査して、DDF の 50%以内の金額に収まるよう、修正をしながら使用計画をまとめ上げ、それに基づき地区から財団の方へ、一括で申請致します。良しとなれば、地区のほうへ補助金が一括しておりてきましたら速やかにクラブの方へ補助金を交付します。報告においては、浄財を使うのですから、適正な報告をよろしくお願い致します。

『新地区補助金 利用上の留意点』

新地区補助金を使うプロジェクトですが、浄財をご提供なさる時に、本当に困っている人を支援するのが基本です。

- ・人道的、本当にこまっている人々、地域の緊急のニーズを支援する。
- ・不特定多数（受益者数、最小 6 名以上）の人々の為に利用。
- ・教育的分野で、国内や海外の大学で学ぶために、援助を必要とし、成績、資質の優秀な学生に奨学金
- ・職業的分野では、技術や現地の人々を指導する目的をもった職業研修チーム事業。

- ・研究学習放課後プロジェクト支援事業も可能ですが、補助対象とならない場合もあります。
- ・地域の障害者や高齢者の為の支援事業は適格です。
- ・就職面接試験トレーニングの様な就職支援事業も、教材費や会場費は認められる事もあります。
- ・青少年健全育成のために重要と考えられるスポーツ大会（障害者や高齢者の健康増進や機能回復に寄与するような目的のものはなお良い）
- ・障害者をサポートして美術館へ招待する時は、障害者のチケット代は認められます。
- ・植樹や環境保全、環境美化事業、公園の遊具、ベンチ、維持管理道具類の寄贈も地域社会全般に役立つものであれば認められる。
- ・プロジェクトの最終報告は、プロジェクト終了後 1 カ月以内に、地区に提出する。補助金資金のすべての支出の領収書を最終報告書と同時に地区へ提出する。

『申請書』『最終報告、支出明細書』

プロジェクトの内容を短く端的に表現して下さい。審査側を説得するためには、上手に作文をしていただくと良いと思います。申請書という形式がありますが、基本的に、全て善意をもって事業計画をたて、白い紙に「こういった事をやりたい」「予算はこうで補助金はこうです」という事をメモ書き程度で結構ですので、地区の方へご提出下さい。記録に残す為に、メモで提出いただき、申請書を地区の事務局で作直すこともあります。形式ばらずに思いをお届け下さい。最終報告書、支払明細書が必要です。

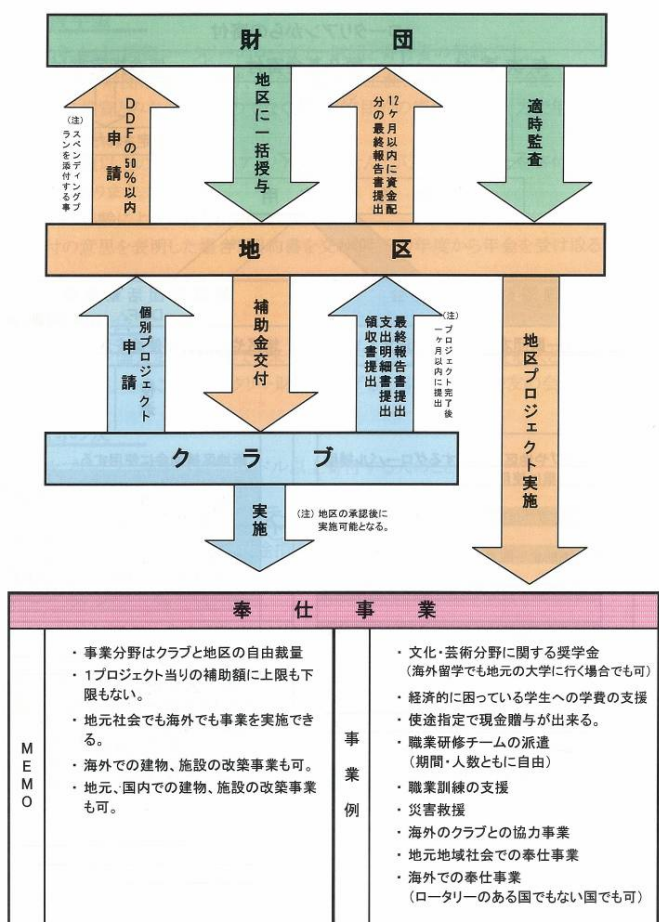
『新補助金制度への参加資格』

皆様の浄財ですので、適格に運用管理は大切な事です。自由視するために自由度を増すと共に皆様の責任も深まるという意味で、参加資格が基本的に条件となっております。

クラブの参加資格

地区がまず参加資格をとり、その次にクラブの参加資格があります。「クラブ覚書」を十分に読んで、署名をして、地区へ提出していただきます。そして、ロータリー財団補助金管理セミナーに出席（必須）し、補助金専用口座を開設し適正な管理します。財団補助金管理セミナーは、福井は、H24年3月中旬までに開催され、少ない人数で濃密に意見交換します。2名様のご参加をお願いします。粗っぽい説明で、十分なご説明が出来ませんが、卓話を終了いたします。ありがとうございました。

新地区補助金



丸岡ロータリークラブ
 会員数：40名 例会場：JA 花咲ふくい丸岡支店 3F 例会日：毎週水曜日 12時30分
 事務局：〒910-0254 福井県坂井市丸岡町一本田 34-7 JA 花咲ふくい 丸岡支店 2F
 TEL 0776-67-0410 FAX 0776-67-4811 E-mail webmaster@maruoka-rotary.com
 クラブ広報委員会 委員長 - 山下健治 会報委員会 委員長 - 小見山修 副委員長 - 倉田教信
 委員 - 島田利男・山本雅人・高倉文寛・水崎亮博・野澤雄一・柿木満雄・杉本政昭・長谷川敬士